

# 国内しか視野に入らない中国為政者

～異質の国との理解が欠かせない～

中国の対応に違和感を抱くことは少なくない。そして、しばしば、中国の異質性に戸惑っている。

中国人は、14 億人と言う多数の人々の暮らす小宇宙。そもそもの前提として、この異なる世界「中華」の住人としての中国人のメンタリティを、理解する必要がある。極めて特徴な、本質的な違いとさえ言えるメンタリティの別世界の住人なのだ。その中国人為政者の判断の尺度の違いを理解できない世界中の人々はしばしば啞然とする…と言うこと。

中国人の思考の、この、根本的な特異性を理解できないから、しばしば中国為政者の言動や行動にお手上げとなる。

小宇宙の中国は生存競争が激しく、とりわけ権力闘争は格別に激しい。しかも共産党による一党独裁体制下、為政者や周辺幹部は、共産党内での権力を巡る熾烈な戦いでほかのことは考えられないという状態にある。

小宇宙の外への配慮はしている余地がない。

香港や台湾への住民感情を逆なでするような対応も、この度のコロナ対応でも、考慮しているのは中国国内の評価だけなのだ。

政権にとって致命的になりかねない、対応遅れで多数の犠牲者を生じたとの批判を封じ込めようと情報統制を強めている。共産党だからこそ封じ込めに成功したとの大キャンペーンを展開している。国民には共産党への感謝することを、大々的に教育しているということだ。

米有力 3 紙 (WSJ、ワシントンポスト、ニューヨークタイムズ) 記者を国外「追放」したのもひたすら国内での政権批判を封じ込めるため。外国紙を外敵として国民の目をそらそうというもの。

中国の為政者の目には、そもそも報道の自由など理解の外。報道機関はあくまでも宣伝機関でしかない。

我々は、先ずは中国のこの異質性を理解してかかることが不可欠だ。

筆者 大貫啓行